活 動 プ ロ グ ラ ム

団体名（　NPO 法人 manabo-de　）

１．事業内容

☐　子どもたちの生活習慣や学習習慣の確立に関する活動
☐　不登校（傾向）児童生徒対象の体験活動
☑　自然体験、生活体験、社会体験に関する活動
☐　家庭教育支援に関する活動
☐　地域課題の解決に関する活動
☑　地域人材の育成に関する活動

※複数選択可

２．活動プログラム名

「　MANIWA ユース芸術文化祭　ホップ ver.　」

３．目　標（ねらい）

※プログラムを通して、参加者に身に付けさせたい力、はぐくみたい姿等

・10 代を中心としたユース世代（小学生も含む）が芸術に触れ、自ら表現をする機会や場を通して、自己成長に繋げる。
・芸術を通して、年齢や性別、国籍を問わず、様々な価値観に触れ合う。
・企画段階から若者が中心となって、ホップ・ステップ・ジャンプと活動の幅を広げていくことで、ユース世代の自主性・主体性を育む。（今年度はホップ＝１年目）
・大学や専門学校のない真庭市に大学の風を感じられるよう、大学生を多くプログラムに絡め、外部からの人材と地域の資源を生かしながら子どもの健全育成や地域の活性化に繋げる。

４．活動内容　　※対象者の活動及び活動実施に向けた研修会等を記載してください。

回	★目標 ・活動内容・対象・参加者人数・スタッフ人数・会場等	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
第１・２・３・４	★ワークショップ実施までの企画・運営を若者が担い、様々な価値観に触れられるよう、芸術を通して交流が生まれる機会づくりを行う。 ★ワークショップを通して、自ら表現をする力を育成を目指す。 ・活動内容：演劇ワークショップ　（全４回実施） ・対象：10 代～30 代の若者、地域住民、岡山大学生、活動に関わる大人、真庭市内小学生と保護者	◆ワークショップを通して、仲間と交流したり意見を伝えあったりしながら、相手の立場を考えるようになる。また企画・運営に関しては、振り返る場面を設け、よりよいものに完成させていく実

回	・講師：桜美林大学芸術文化学群学生 4 名 ・参加人数：8/19（月）17 名 8/20（火）20 名 8/21（水）6 名 8/22（木）4 名 ・会場　：8/19（月）なつつばき（真庭市余野下） 8/20（火）久世公民館（真庭市久世） 8/21（水）真庭市立中央図書館（真庭市勝山） 8/22（木）久世公民館（真庭市久世） ※本ワークショップに向けて、事前に桜美林大学絹川助教と打ち合わせを実施。アドバイスをいただいた。(7/16（火）実施) 	体験を積む。 ◆演劇などの芸術が興行ではなく、公共的に人に癒しや楽しみを与えて、生活を豊かにしたり、自己表現の手法の１つであることを認識する。また、「変化」を楽しむきっかけとなる。 （行動観察・事後アンケートの実施）
第５	★ステップ ver. に向けた作戦会議として位置付ける。 ★演劇ワークショップを通した、変化の気づきを言語化	◆振り返りを通して、自らの変化や他者の変化を捉

回	する。 ★大学生の見取り力の育成（どのように子どもたち（市民）が変化したか？）に関して、大学の先生から助言をいただき、参加者にとって実践者の変化の見取りに関する学びに繋がるようにする。 ★振り返りから次年度への計画に繋げ、PDCA サイクルを回せる若者たちの育成を目指す。 ・活動内容： ①オンラインでの活動の振り返りと次年度の計画を盛り込んだ活動報告会 ②専門家によるオンライン・レクチャー ・対象：ワークショップ参加者、活動に関わる大人、教育関係者 ・講師：絹川友梨氏（桜美林大学芸術文化学群助教授） ・参加人数：17 名 ・会場：オンライン ※本講習に向けて、事前に桜美林大学絹川助教と打ち合わせを実施。事後指導も含めたアドバイスをいただく。（11/7（木）） 	える。また教職に就きたい学生にとっては、子どもの変化の見取りをする力の育成に繋がる。 ◆講師を呼んで活動へのフィードバックをいただきながら、専門的に演劇教育のもつ可能性についてご講義いただく。若者が自ら次年度に向けてブラッシュアップさせていく機会とする。 （参加者からの声・事後アンケートの実施）

５．展　開

回 時間	内　容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
【第１回】 30 分	ワークショップ 【導　入】 〇趣旨説明 〇ねらいの確認 〇自己紹介		・名前の呼び方に配慮する ・学生主導で実施 ・写真・動画の撮影の可否を確認	
90 分	【活　動】 演劇ワークショップ 講師：桜美林大学生 ・グループづくり ・アイスブレイク ・グループ活動（創作） 鬼ごっこ 怒りの表現 スペースジャンプ	・マイク ・マジック ・養生テープ	・進行：桜美林大学生 ・安心安全な場づくりについて協力を得る（当法人構成員から全体へ周知）	◆ワークショップを通して、仲間と交流したり意見を伝えあったりしながら、相手の立場を考えるようになる。また企画・運営に関しては、振り返る場面を設け、修正をしながらよりよいものに完成させていく実体験を積む。
30 分	【振り返り】 ・桜美林大学生による公演 オリジナル脚本 「田中を待ちながら」 ・感想シェア ・自己と他者の変化を捉える	・アンケート用紙（感想記入）	・「やる」場面と「見る」場面を作り、演劇の楽しみ方を伝える。	◆演劇などの芸術が興行ではなく、公共的に人に癒しや楽しみを与えて、生活を豊かにしたり、自己表現の手法の１つであることを認識する。また、「変化」を楽しむきっかけとなる。 （事後アンケート）

回 時間	内　容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
【第2回】 5分	ワークショップ 【導　入】 〇趣旨説明 〇ねらいの確認		・名前の呼び方に配慮する ・学生主導で実施 ・写真・動画の撮影の可否を確認	
10分	【活　動】 演劇ワークショップ 講師：桜美林大学生 ・グループ活動（創作） 即興劇の作成 「桃太郎の100年後」	・マジック ・メモ用紙 ・養生テープ	・進行：桜美林大学生 ・安心安全な場づくりについて協力を得る（当法人構成員から全体へ周知）	◆ワークショップを通して、仲間と交流したり意見を伝えあったりしながら、相手の立場を考えるようになる。また企画・運営に関しては、振り返る場面を設け、修正をしながらよりよいものに完成させていく実体験を積む。
5分	【振り返り】 ・子どもたちによる発表	・アンケート用紙（感想記入）		◆演劇などの芸術が興行ではなく、公共的に人に癒しや楽しみを与えて、生活を豊かにしたり、自己表現の手法の１つであることを認識する。また、「変化」を楽しむきっかけとなる。 （事後アンケート）

※このサイクルを３回実施

回 時間	内　容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
【第3・4回】 30分	ワークショップ 【導　入】 〇趣旨説明 〇ねらいの確認 〇自己紹介		・名前の呼び方に配慮する ・学生主導で実施 ・写真・動画の撮影の可否を確認	
80分	【活　動】 演劇ワークショップ 講師：桜美林大学生 ・グループづくり ・アイスブレイク ・グループ活動（創作） 即興劇の作成 「絵本を作ろう」 「桃太郎の100年後」 ・発表	・マイク ・マジック ・養生テープ	・進行：桜美林大学生 ・安心安全な場づくりについて協力を得る（当法人構成員から全体へ周知） ・「やる」場面と「見る」場面を作り、演劇の楽しみ方を伝える。	◆ワークショップを通して、仲間と交流したり意見を伝えあったりしながら、相手の立場を考えるようになる。また企画・運営に関しては、振り返る場面を設け、修正をしながらよりよいものに完成させていく実体験を積む。
90分	【活　動】 ・オリジナル脚本上演 「田中を待ちながら」 ・リーディングイベント 「紙風船」			
30分	【振り返り】 ・感想シェア ・自己と他者の変化を捉える	・アンケート用紙（感想記入）		◆演劇などの芸術が興行ではなく、公共的に人に癒しや楽しみを与えて、生活を豊かにしたり、自己表現の手法の１つであることを認識する。また、「変化」を楽しむきっかけとなる。 （事後アンケート）

回 時間	内　容	準備物	留意点	◆目指す参加者の姿 （評価方法）
【第5回】 オンライン 5分	【導　入】 〇趣旨説明 〇ねらいの確認 〇振り返りの言語化	・PC	進行：当法人構成員 ・当日の様子を動画、写真等で振り返る	
20分	学生講師による活動報告			◆振り返りを通して、自らの変化や他者の変化を捉える。
5分	指導講評 講師：絹川友梨先生（桜美林大学芸術文化学群助教） ・活動総括について	・講義資料印刷	・参加者の声を聴いて、講評をいただく。 ・学生目線、地域目線、指導者目線で語っていただく。	
50分	オンラインレクチャー 「自分を表現する創作の価値や魅力～演劇の持つ可能性～」 講師：絹川友梨先生/桜美林大学芸術文化学群助教授			◆チャット欄を使って、演劇の持つ可能性について、参加者同士が対話するように促す。
10分	【振り返り】 〇講話の感想シェア 〇次年度に向けて新たなアイデア出し			◆若者が自ら次年度に向けてブラッシュアップさせていく。（次年度企画書作成へ繋げる） ◆参加者からの声をもらい、演劇教育について学びを深める。 （事後アンケートの実施）